

議 事 録	
会議の名称	令和８年度 第１回 愛荘町総合教育会議
開催日時	令和８年６月２４日（水）午後２時００分～午後３時１５分
開催場所	愛荘町役場本庁舎 ３階 第２委員会室
出席者	【構成員】７名 町長 有村 国知、教育長 徳田 寿 教育長職務代理者 森 秀昭 教育委員 黒川 泰守、木津 知里、森野 啓子 【事務局】９名 福祉政策監 木村 美紀 子ども支援課長 増居 志穂 教育次長 西川 傳和 学校教育担当課長 西澤 仁志 給食センター所長 小林 充周 生涯学習課課長 清水 恵一 愛知川公民館長 本田 有弘 図書館館長 三浦 寛二 歴史文化博物館長 下村今日子 教育振興課参事 橋本 庸介 秦荘幼稚園長 今村 増弘 愛知川幼稚園長 井上佳代子 教育振興課長補佐 久保川美晴 【傍聴者】０名
議事日程	協議事項 ・「これからの幼児教育のあり方について」 教育振興課 橋本庸介 （報告事項） （・愛荘町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について 教育振興課 学校教育担当課長 西澤 仁志）
議事録作成者	教育振興課 久保川 美晴
教育次長	午後２時００分開会 皆さんこんにちは。 ただいまから令和８年度第１回目となります愛荘町教育総合会議を開催いたします。 はじめに有村町長からご挨拶をお願いします。
町長	みなさん、こんにちは。本日は、令和８年度第１回愛荘町総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。 この総合教育会議では色々なテーマを取り扱っていただいています。愛荘町の子どもたちの教育環境をより良い形にしていきたいと考えております。 ワールドカップの試合が近日中にありますが、海外組が健闘されている

教育次長	というところで、特別なものじゃなく、普通のものとして戦えているっていうようなことをコメントとして聞きました。確かにそうだなと、内なる国際化というのは、愛荘町においても進んでおりますし、いろんなバックグラウンドを持ちながらみんな切磋琢磨をしていけているという、今の時代に即しているなと思います。 また教育の分野において、AI が単に情報を返すだけでなく、それぞれの社会における経済活動においても AI ということの優位性ということが大変この数年でスピードは速くなってきておりますので、人間と共に運用する機械やロボットの役割が増える中で、より人間に人間力や俯瞰的な視野が求められていきます。個人で大規模な企業を立ち上げることが困難でない時代になっているため、まさに人間の能力や協力の重要性が高まっています。 幼児教育のあり方につきまして本日皆様から貴重なご意見をいただけるということをお大変嬉しく思っております。これからの時代において、子どもたちが健やかに成長できる環境を整えることが、私たちの重要な使命であると考えております。 特に幼児教育の充実を図るために、望ましい集団活動の実現に向けて、多様な取り組みを進めていく必要があります。 本会議は、二つの幼稚園の統合や町内の民間保育園の認定こども園化を初め、町立保育園および幼稚園の認定こども園化も視野に入れた体制整備について議論を重ねていきたいと考えております。 私たちが目指すよう幼児教育は知識を教えるだけでは子どもたちが思いやりを持ち、お互いに協力し合う力を育むことでもあります。 本日は皆様の豊富な知見と経験をもとに、建設的かつ有意義な議論を交わしながら、未来の幼児教育・保育に向けた具体的なステップを見出していければと考えます。 結びになりますが、本日の会議が実り多いものとなりますように心より願っております。皆様にとって有意義な対話と協議となりますように、ご協力いただきますようお願い申し上げます。本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。 ありがとうございました。 それでは次第に基づきまして出席者の紹介でございますが、本日の会議には教育委員会職員とともに、木村福祉政策監、増居子ども支援課長、今村秦荘幼稚園長、井上愛知川幼稚園長にも出席をいただいております。紹介は以上でございます。 本日開催いたします総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4で定められている会議でございます。町長と教育委
------	--

議長（有村町長）	員会が愛荘町の教育課題や目指すべき姿を共有し、連携して教育行政を推進しようという会議でございます。 本日は、「これからの幼児教育のあり方について」をテーマとして、意見交換をしていただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。 では会議の運営につきましては、愛荘町総合教育会議設置要綱に基づいて進めてまいりたいと思います。 早速ではございますが、設置要綱第4条によりまして、町長が議長になることから、会議の進行を有村町長にお願いしたいと思います。よろしくお願いします。 それでは設置要綱に基づいて、議長を務めさせていただきたいと思います。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。 次第の3 議題「これからの幼児教育のあり方について」にかかる意見交換です。それでは意見交換に先立ちまして、教育振興課より説明をしていただきます。よろしくお願いします。
教育振興課参事	—資料に基づき説明— （説明要約） 【 愛荘町の子どもの状況を説明。H27 から R8 までのこどもの数の推移を示す。0～5 歳児までの未就学児童、H27 の 1,533 人をピークに、R8 には 884 人、子どもの数が減少している。H27 と R8 を比較すると、未就学児童数は 649 人減少しておりこれら減少傾向は今後も続くことが予測される。 町内保育所および幼稚園の受け入れ数を示す。R8. 4. 1 現在の町内保育所入所数の状況、愛知川・秦荘両幼稚園の入園数の状況を示した。保育所については町立が 1 園、民間 5 園の計 6 園。どの園も定員とほぼ同程度の児童を受け入れている状況。R1. 10 から国の政策により 3 歳児以上の保育料が無償化となったことも大きな要因。子どもを幼少期から保育所に預け、両親が働きに出るといふ共働き家庭が増えている。そのため、年度途中の入所もあり、定員を超えて受け入れをする園が大半。未就学児の数は減少傾向だが、保育ニーズは今後も高くなっていくことが予測される。一方で、愛知川幼稚園は定員 240 人に対し入園数が 123 人で、入園率は 51.2%、秦荘幼稚園は定員 160 人に対し入園数が 65 人で、入園率は 40.6%となっている状況。特に秦荘幼稚園については、秦荘エリアの出生数の減少に伴い、今後も減少幅が大きくなることが予測される。 子どもたちが小学校に入学すると義務教育による学習が始まる。幼児教育は、いわばその学習の基礎となるものであり、子どもののびのびとした好奇心・探求心を豊かにしたり、思考力・判断力を養い、人間性を培うといった役割があると言われている。また、園生活において、「協同性の向

議長（有村町長）	上」を培っていくためには、3 歳児でも 1 学級に 20 人前後の集団が適切であると言われている。こどもにとって望ましい集団活動ができる環境も併せて検討していかなければならないと考えている。 H30～R9 までの見込みを含めた保育所および幼稚園の入園数の推移。保育所については、300 人程度を維持。幼稚園につきましては、子どもの減少に比例し、入園数も減少し、H30 と R8 を比較すると、愛知川幼稚園では 142 名、秦荘幼稚園では 74 名の減と、どちらの園も 50%以上の減少。今後も出生数の低下や保護者の就労ニーズの高まりから、幼稚園の入園数の減少が予想される。 以上のことから、今後の検討すべきポイントを示す ①幼児教育の充実として幼稚園の統合。幼児教育の充実に向け、こどもにとって望ましい集団活動ができる規模を考えていく必要があるため、秦荘幼稚園と愛知川幼稚園の統合を早急に進めていく必要があると考える ②認定こども園の設置。民間保育所の認定こども園化の検討をはじめ、町立の保育園および幼稚園の認定こども園化も視野に入れ、幼児教育・保育を一体的に行う施設を設けることで、こどもの受け入れ幅を広げていく必要があると考える。1 つ目の幼稚園の統合と 2 つ目の認定こども園化については、幼児教育・保育を一層充実していくために、同じタイミングでスタートできるよう体制整備を行う必要があると考える。今年度、一定の方向性を関係の方々の意見もらいながら整理していきたい。 ③国の制度開始に伴い、R8～「こども誰でも通園制度」を町立つくし保育園でスタート。利用状況やニーズの把握を行い、今後は民間保育所等への横展開もあわせて検討していきたい。 認定こども園に関する概要を整理説明。認定こども園とは、幼児教育・保育を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持つ施設。保育所や幼稚園を認定こども園に変えていくことで、それぞれの入園条件を緩和し、こどもの受け入れ幅を広げることが、認定こども園の主な目的。保育所と幼稚園の機能を併せ持った認定こども園は「こども家庭庁」が管轄する、保護者が働いている・いないに関わらず利用できる施設。認定こども園には「幼保連携型・幼稚園型・保育所型・地方裁量型」の 4 つのタイプがある。令和 6 年度現在の県内の認定こども園の未設置団体は愛荘町と豊郷町のみ。 】 以上より、こどもの人数の推移に応じた幼児教育のあり方を考えることは、喫緊の課題であると考えておりますので、皆様から色々ご意見をいただきたく考えておりますので、よろしくお願いします。 ありがとうございました。それでは、私と教育委員の皆さんとで意見交
----------	---

	換を行いたいと思います。事務局からの説明にあった通り、町内の幼稚園の園児数は減少傾向にあります。学校現場や地域、保護者の視点から、現在二つの幼稚園の様子や、子どもの集団の大きさについて気になることや変化を感じる点があるか等をお聞きしたいと思います。また、認定こども園に関するご意見をお寄せいただければと思っております。そして現場や地域をご覧いただいて、気になることがあれば、ご質問も含めてご意見をいただけますと幸いです。
黒川委員	よくわからない部分もあるのですが、色々聞かせていただきたいことがあるのですが、元々いつスタートを予定しているのですか。
教育次長	具体的なスタートの時期については、皆様のご意見を聞かしていただいて、今後保護者の方々等へ意見を聞く、その他にもいろいろと調整も進めていくというところもありますので、ある程度時間はかかるかと考えております。ただ、先ほども説明をさせていただいた通りですが、園児数が加速的に減ってきているというところもありますので、時間を置いて進める案件ではないという状況であります。具体的にいつからというところはまだお示しさせてもらう段階まで進んでいないという状況です。
黒川委員	他市町は色々と進めている中、なぜ、愛荘町は今の時期になってしまったのでしょうか。
福祉政策監	認定こども園については、今までからも何度も何度も議論を繰り返してきたという経過があります。他市町と違って、愛荘町の保育園は公立1園で、5園が私立であるというところも大きな課題の一つでありまして、園の経営等も加味しながら話を進めてきたところでございます。今ほど事務局の方から説明がありましたけれども、一つとして、幼稚園の一本化と認定こども園という方向を同時にしていく、一方で民間園の認定こども園化というのが同時に進むことが、町としてはすごく潤いもできて、安心して子育てができる環境になるのかと思うのですけれども、民間園の意向調査等もこれからになりますので、同時にというのは少し難しいかもしれませんが、幼稚園を仮に一本化したときには何らかの形でこども園も同時に開設できる形をとっていきたいなというふうに思っているところでございます。
黒川委員	私も自営で経営しているもので、保育園の経営もあると思いますので、これから難しい課題にはなるのかなと思います。でもやはり教育も大切だと思います。時期が遅かったことをメリットにして、今までの失敗や課題

	とかを克服してこられた他市町の例があると思うので、それを生かした愛荘町のこども園というのを考え、活かさせていただければと思います。 小学校でも教育長のもと、40 分授業午前 5 時間制といった前向きな取り組みをしてきていますので、幼稚園でも、右へならえではなくて、愛荘町にしかない、みんなに真似してもらえるようなこども園になれるようにこれから皆さんと色々な意見を出していけたらと思います。
議長（有村町長）	ありがとうございます。
森委員	一つ伺います。幼稚園を統合して幼稚園だけをこども園とする場合と、町として保育園と 3 園で出発するということも考えられると思います。その後の状況を見て、民間保育園の方から一緒にやろうかという話が出てくる可能性もあると思う。それぞれ特徴を持ったものがそれぞれの園にはあり、一本化するには難しいなというのは感じていました。 ただ、そこで、その園が保育園として今後も継続して成り立ってそのままいけるかという問題もあるし、この地域の子どもはもう入ってくる子が少なくなったなということや、そのあたりの様子もどのように考えておられるのか少し教えていただきたいです。
教育次長	ありがとうございます。今回検討すべきポイントとして挙げさせていただいている中の一つとしては幼稚園の統合というところです。 今、森委員おっしゃっていただいたように例えばそこに町立保育園を足して合わせて統合してはどうかという一つのご意見かと思います。 これはハード面の課題があるのではと考えております。資料にあるとおり幼稚園の定員が今 240 人に対し、入園児数が 123 人、つくし保育園にしましては定員を超える人数が通っているというようなところがございます。こういったところから考えると、まず幼稚園を統合し、保育のニーズという部分、保育する時間の拡大という部分を含めまして、こども園化することで新たなこども園を利用される方も増えてくるというところで考えています。、こういったところでまず 3～5 歳児の保育環境の整備を図るということと、あとは施設が持つ機能の有効化ということが一つの考え方でございます。
木津委員	こどもが少なくなったから、統合しないといけないね、せっかくならこども園にしようかという後ろ向きな考えでこども園にするというよりも、こども園にするなら、これを起爆剤として、外からの移住者・若い世代を呼び込もうというぐらいの感じで、教育関係の人たちだけでなく、役場内の移住をすすめる課と連携して、これを売りに移住者を呼びこもうと

教育次長	か、こういう魅力的なこども園を作って、これによってもっと愛荘町を活性化していくという未来に向けての考え方で、このこども園の話が進んでいくと、もっと良い未来が考えていけるんじゃないかなということを感じました。 あと単純に統合した場合に、子どもたちの人数が1園に増えると思うのですけれども、そうした場合に、少ない人数で子どもたちがお友達と遊んだりとかしているのと、多くの中で子どもたちが関わったりするのとで、子どもにとってのメリット、デメリットを知りたいなと思います。 前向きに進めていくというポイントでございますけれども、確かに二つある園が一つになってしまうというネガティブな要素もあるかもしれませんが、それはもちろん切り替えて前向きな方向で捉えて進めていくというところは重要であるというふうに思います。そこに関しては環境が良くなるということをPRしていく必要があるかと思います。 もう一つは2園から1園になることによって、一定財政的な部分で、他の部分に還元できるかというところも一つ考えていけるところなのかなというふうに考えております。 そういったところでできる限り、今の社会のニーズに合った形、町内の方だけでなく町外の方にも先進的な取り組みになるような形で、その方法というのを考えていく必要があるのかなと思います。
秦荘幼稚園長	先ほどの説明で、3歳児1学級20人前後の集団が適正ですとあったのですが、それはあんまり根拠がないような気がします。だから駄目とかいう意味ではなくて、3歳児が一番良いのは15人程度で多くても18人20人までぐらいがいいかなと考えています。4歳児は25人までぐらい、全国的に言うと23.7人ぐらいですが、5歳児になるとまた増えて全国的には26.1であると、幼稚園は何人程度がいいというのは、発達年代によってやはり違うのかと思います。もしも令和9年度の予測値でいくなら例えば秦荘幼稚園のキャパでも受け入れることができると思います。愛知川幼稚園に統合するというのももちろん選択肢の一つだと思いますが、その辺も考えられるかなと思います。あと、認定こども園にしていくときに、やはり町内の保育園が今まで築いてきたことがあると思うので、そこをやはり町が守っていく形で進めないと進まないと思います。
愛知川幼稚園長	人数が多くなったときのメリット・デメリットっていうところでは、やはり人数が少ないと子ども同士で揉まれるべきことが大人が目がたくさんあるので、子ども同士で解決できるところを先生たちがすぐ間に入って、言わなくていいことを言ってしまうとか、そういう部分がたくさんあ

	と思います。やはり子ども同士の中で、育つ部分はすごく多くありますので、人数が多い方が集団の育ちができるので、私はいいかと思います。 でも多すぎると、今度は職員が見切れない、多い人数を限られた職員の中で、先生こっち来て、あっち来て、と誘ってくれるグループがあって、見れていないグループが出てくると、ケガをしたということがあってはいけないので、大人数であれば、やはり職員数をしっかり配置していかないといけないなと考えます。でも、子どもが育つとなると、やはり1クラスにある程度の人数は必要かなというふうに現場では思っています。
森野委員	初歩的なことをお尋ねしますが、この幼稚園統合というのは、秦荘幼稚園と愛知川幼稚園ですが、認定こども園を新しく作るというのは、幼稚園を統合したうえで、認定こども園を新たに作るというつもりなのでしょうか。
議長（有村町長）	議論の大事なポイントだと存じます。
福祉政策監	ここに至るまで、かなり事務局の中でも議論をしてきたところです。木津委員が言ってくださったマイナスからのスタートじゃなく、これをプラスに働かせたらいいのという言葉聞いて、本当だとつくづく思いました。出生数が減っていくけれども、そこで生まれた子を大事に育てる町というのも一つのPRの仕方だなと、そんな大事に育ててくれる町なら、私も移住してみたい、そこに行きたい、という魅力発信というのも一つのキーワードだなと思ってすごく感動して聞かせていただきました。 森野委員が言っていた話ですが、今考えている途中ですけれども、秦荘と愛知川の幼稚園を1園にして、その1園をこども園化していくということで考えています。こども園には、保育園と幼稚園の要素があるので今まで通り幼稚園を利用する子はこの一つになった幼稚園に行く、長く保育をしてほしい子については、こども園の方に来ていただくという考えが一つあります。 一方で先ほども次長が説明しましたが、0歳からのこども園にしようと思うと、0、1、2歳児の環境というのはすごく大切になってきて、今の幼稚園にある施設というのは3歳以上の建物になっています。現時点でできるこども園っていうのは3歳以上のこども園で、3歳以上の子が保育園も幼稚園も同じところに行けるみたいなイメージで今話を進めています。 ただ、0～2歳児のこども園というのは今後どうしていこうというときに、一方で民間園がもし認定こども園化に手を挙げてくださったら、愛荘町には公立の3歳以上のこども園と0歳から5歳までの民間のこども園があるとより充実し、木津委員が言ってくださったみたいにPRになるだろ

	うなというふうに受け止めさせていただいてます。
森野委員	つくし保育園はそのままということですね。今、つくし保育園は朝何時からって夕方何時までを保育していただけているのでしょうか。
福祉政策監	早朝 7 時半から 19 時までで、早朝と延長保育させていただいております。今お話いただいたみたいにつくし保育園のニーズはすごく高くなっています。保育園自体のニーズが皆さん高くなっているの、いわゆる保育園をこども園化というのは今のところ考えていませんが、皆さんの意見を聞かせていただいて、今後検討していきたいなと思っております。
森野委員	木津委員がおっしゃったように、愛荘町の PR になるような子どもを育てるということで、保育園、幼稚園にしても秦荘は西と東にわかれてる、愛知川も西と東にわかれてる。愛知川幼稚園での友達がそのまま愛知川小学校に行くとか、愛知川東幼稚園がもしあった場合、そのまま愛知川東小学校に行くとか、愛荘町ではどうなのかなとは思いますが、そのときにこの私立の保育園さんを一緒というのは難しいですか。
福祉政策監	以前は 3 歳からみんな幼稚園に行かれていた時もありました。そうするとその地域の小学校の子たちがみんな幼稚園に行くのでそのまま顔の知った子たちがそのまま行くということが多かったのですが、出生数も減ってきているのと働く女性も増えてきているというのとで、保育園のニーズがかなり高くなってきているので、例えば学区の保育園にそのまま入れない子もいます。例えば愛知川小学校区の子どもでも愛知川東小学校区の保育園に行ってもらわないといけない子もいらっしゃるような感じなので、その辺が体制的に難しいんだろうなと思っています。 ただ一方で先ほどもお伝えしていますけれども、こども園になったら多くの人が保育園を兼ねて、幼稚園兼ねてってなると、そういう顔の繋がりってというのはできていくのかなっていう意味では期待もしたいところです。
議長（有村町長）	先ほど福祉政策監から発言あったところがある程度の骨子になるのかなというところだと思います。幼稚園が統合されるという一つのシミュレーションで、統合されたものがこども園化になる、つくし保育園はそのまま保育を提供していく。また民間のそれぞれ保育を行ってくださいますこの民間園の中でもこども園ということを施行され、叶うとまた新たな価値になるのではというのが全体のシミュレーションがあって、検討のたたき台であるのかなというふうに思います。

木津委員	このテーマで話をしているときに、よりそれがプラスの事柄として進められるようにというふうに言われてます。もちろんその方向で力を合わせていくということになりますけれども、何をするにしても、乗り越えていかなければならないことはでてくるのは当然でございますので、委員の方から、このテーマにおいて何か困難なところがあるとすればどういうところなのかなというのがもしあれば共有いただければと思います。 幼稚園バスを走らせていただいて、知り合いのお母さんが大津からこちらに引っ越してこられたときに 愛知川幼稚園に入ります→幼稚園バス使いますか使えませんかと聞かれたと、選択できるということにびっくりしたと話しておられました。幼稚園バスが走っているのであれば、有無を言わず全員乗せてバス代を取った方がいいのに乗らなくてもいいなんて、愛荘町はお金あるんだなと思ったとも話しておられました。財政的には可能なのでしょうか。財政的にも心配で、このこども園にするのにすごくお金がかかってしますとかなら、困るなあとも思います。少しでも楽になるような運営の仕方考えた方がいいのかなと思ったりします。ただあまりにもお金をかけずに、削減するばかりとなると、魅力的な幼稚園とかというのも難しいしとも思います。あまりお金をかけず、そしてもし幼稚園が統合された場合どちらかの幼稚園が空くわけなので、そちらを民間やNPO とかに貸すとかしてお金を生み出すことも一緒に考えたりとかしないと駄目なのかなと思いました。
教育次長	バスの運行に関しましてはかねてよりいろいろと議論がございます。実際運行するのに年間 2500 万円ほどの費用がかかっているというところ です。全ての方が利用していないというところもございます。そういったところを含めまして、今後の幼児教育のあり方というところも含め合わせた議論として考えていく必要があると考えております。ただ、交通手段がないと登園できない子どももいるかと思ひます。そういったところをどういふふうにしていくかというのも、議論していく必要があるのかなというふうに思っております。 こどもを送迎する手段として、町も用意することが必要にはなるのですが、やはり利用の状況等を踏まえた中で、年間 2500 万円というのが適切であるかどうか、単純に費用対効果という表現では言い表せない部分もあるとは思ひますが、木津委員がおっしゃっていただいた通りその辺の視点というのもすごく必要かなというふうに思ひますので、バスの運行に関しても、これも併せて考えていきたいと思ひております。
森委員	認定こども園が欲しいなというのは前々から私もありました。やはり取

議長（有村町長）	り組んでいって子ども、保護者、地域に対してプラスになるような方向は欲しい。私は、愛荘町の人間であるが、秦荘地区の人間でもあります。秦荘の方は、今、子どもがどんどんどんどん減っています。青パトで町内回ってても、俗に言う上（かみ）の方へ帰っていく子どもは数えるほどしかない。学童とかに行っているというのもありますが。パトロール中もたった数人しか出会わないというそういう会話が増えてきています。 集団下校で全員が帰るときは、そこその人数はいるけれど、数人の子たちだと家に帰るまで見ないと危ないなという話をしていました。 それから考えると、やはり人口が増えているのは愛知川方面です。人々が多い方に統合した施設を作った方が、効率的にも良いとなると、今後秦荘地域の生き方というのはどうなるのかなと感じる時があります。保育所が、今後成立できないというふうになったときに、保護者は必ず愛知川まで送ってこなくてはいけなくなります。秦荘地域にも何か人を呼び込む施策をしないといけないと思います。 色々使える場所はあると思うので、色んな事業者に来てもらうなり、あるいは住宅ができるなり、単なる業者だけじゃなしに、やはり町としても、そういうのを進めていくようなものを持ってもらえると我々としてもありがたい、住宅あるいは人々の交流ができるように、そういった愛荘町となるように考えて欲しいです。 今日の幼児教育の部分に関して、次の政策をというときにこうやって委員の皆様にご意見をいただくということはすごく大事でございますので先ほど冒頭にもありましたけれども、民間の園の皆さんもいてくださいます。その方々のご意向とか経営向けての思いというのもあります。そして、子どもたちが減少しているというところでございます。 私が町長職をお預かりしているということもあって発言をさせていただきます。愛荘町のいろんな資源っていうのはやはり限られています。そのことの難しさということがあって、夕張市という事象が自治体において存在してしまった。結果、いろんな住民サービスを停止せざるを得ないということになり、またそれが住民の流出にも繋がりました。放漫な経営はできないということでもかなり厳しくされて、あと数年で再建団体から脱却されるという時期まできております。 20年前でございますが、こども園っていうのが当然だよというようなところでもございましたが、愛荘の町ではなかなか難しいと、その背景としてやはり民間園の皆様が子どもたちをしっかりと民間園で引き受けていただいていたということがあって、こども園という広く收容させていただけるものを行政がするということは私達の経営に対して非常に脅かすものになりかねないというところが当然でございますので、そんな事柄もあつ
----------	--

て、二の足を踏んだというところもございますけれども、あるものは当然あった方がいいと思いますが、愛荘町は合併して 21 年目でございますけれども、公共施設の維持管理であまりにもお金を取られすぎている町で、全部先送りしてきているので、私の代になってそこに向き合わせていただいています。非常に批判も多いですけど、向き合わなくて次の世代の皆さん課題解決を、なおかつ負担をなんて言えないので、向き合わせていただいているのが私達の代ですということがございます。

私がお世話になりました沓掛にありました「たちばな保育園」、これはその経営の中において閉園をされておられますが、あるものが全てずっとあり続けるということではない中でも地域の子どもを守れているわけでございますし、同じ 2 万人の町であります日野町ですが、特に幼児教育の部分に関して非常に手厚い園の数、先生の数がありますが、いよいよ日野町でも取り組んでいかれます。かなりの変革になるかと思います。それでも、そこにもしっかりと取り組んでいこうということをされておりますので、冒頭にも触れましたけども、夕張市のようなことは愛荘町の町においてはできないということでございます。

大津からいらっしゃった方が愛荘町は豊かなのねというふうに思われたのも、やはり愛荘町は求められたこと全部応えようとして、それが今、首を絞めているので自由度がほとんどない行政になってしまっています。だから困難なことであってもそれを乗り越えていこうということで向き合おうとして、今、民間園の先生方もある程度ご理解はいただけているという状況です。

今日、皆様からもいただいているご意見の中、特に、よりプラスのこととして、兄弟のある子どもたちが同じ園で過ごせる、またそのまま上にも上がりやすくなっていくってということも一つのメリットでもございますし、それが統合という形に仮になったならば、私達も園の経営陣の先生方にもご理解いただけるような説明をすることができると思いますし、施設の管理ということに関しても、お金をしっかりと充てに行きやすくなります。シミュレーションの中ということでは当然ありますけれども、ご心配をいただきました秦荘幼稚園の利活用につきましても、財政的にもプラスに寄与するように、仮に民間の方がそこを受けてくださって何かしらの業務をされるとか、そういうことも想起しながら、やっていくってことが可能というのかな、というふうに町長職をお預かりさせていただいてる人間としてはそのような景色を見ているというところでございます。

こればかりで全ての方向が進むということではございませんけれども、今日、委員からいただきまして、方向ということに関しては、ある程度深掘りをしていっても良いというようなご意見をいただけるということであれば、ぜひ民間の方々とも話を進めながら、関係の方々ともお話を進めら

各委員	れながら、ということは思っております。 口火を切っていただいた、黒川委員がどうして愛荘町が最後になってしまっているのかというところは、率直なところとして、今まで困難がありましたけれども、いよいよそういう取り組みをやっていくと考えております。 そういうことで、この方向で今後深掘りしていくということに関しましては、いかがでございますか。よろしいでしょうか。
議長（有村町長）	異議なし ありがとうございます。教育と福祉で連携しながら取り組ませていただきたいと思います。 今村先生がおっしゃったのも、大事な点だと思います。秦荘幼稚園で収容できる人数であるということも、心の内の一つだと思って拝聴しております。 以上で、本日の協議事項は全て終了しましたので、以後の進行につきましては、事務局でお願いします。
教育次長	ありがとうございます。 （報告事項：愛荘町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について学校教育担当課長より報告）
教育次長	それでは閉会のあいさつを教育長よりしくをお願いします。
教育長	それでは閉会にあたりまして一言ご挨拶を申し上げたいと思います。 まず本日は長時間にわたりまして今後の幼児教育のあり方につきまして、特に根幹の部分ということもたくさんございましたけれども、熱心にご協議をいただきまして、本当にありがとうございました。 この件につきましては、福祉部局の方とも何度も話を進めてきております。町長からのご発言ありましたように、やはり現実的な部分というのがもちろんございます。園の経営というのは財政的な意味での経営というのもあります。ない袖は振れないということもありますし、社会情勢いろいろなものを勘案して、今、一番イメージしている幼稚園型のこども園というのが、現実的には一番妥当なのかなというふうには思っておりますけれども、このことにつきましては、今後いろんな方々のご意見をお聞きしていくということが必要かなと思っております。 一方で、いわゆるハード面の在り様がどうかということについては、こ

教育次長	れは全国の多くの自治体が、少子化が加速化していることとか、あるいは合併して、大きな市が小さな町や村とかを吸収した自治体においては、びっくりするような数になっていて、喫緊の課題であり、かつ重要な課題であるということでこれは本町も同じような状況でやっているということですから。けれどもそこで大事にしたいのは、黒川委員からもそれから木津委員からもありましたし、例えば町長の方からは、今日冒頭の方で、これからより人間力とか俯瞰する力とか、人としての力を求められているようなお話がありましたけども、いわゆる園の経営というのは、ソフトの面もありますので、この部分での勝負というものが私はいいかんと思っています。黒川委員には小学校の柔軟な経営改善の創造になぞらえてその辺りをおっしゃっていただきましたけれども、そういうもので魅力あるいは信頼を得る、そういう幼児教育を構築していくというのが、とても大事なかなと思っています。 今、幼児期における遊びの中で例えば直接的具体的に体験を通して、学ぶということが客観的抽象的な認識や思考の発達に繋がると、それは、小学校以降の生活や学習の基盤となるというふうに言われているので、本当に幼児教育、もう少し言えば、架け橋期の教育と言われてますけども5歳児と小1とかこの辺りをうまく繋いでいって、義務教育の最終の中学校の出口のところで、自律型の人材をきちっと育てていくと、ここの連続性が必要ということでそういうことも見越してのハード面がどうあるべきかということ、両輪で考えていく必要があるのかなと思っています。地域のいろんな特色とか、あるいは違いもあるとは思いますが、面積的には愛荘町そんなに大きくはないわけですがけれども、でも様々な思いがあらうかと思っています。 公共施設の話にしても、二つあるのを全て一つにするというそういう機械的なことをやってるわけではありません。例えば、図書館は二つの図書館を維持していく、これは町長も明言しておられます。本当に何がどのようにあれば、あるいはどのように生かしていけば、よりよい町づくりができるのかというところを、ぶれることなく、皆さんと議論していきたいと思っています。本日は誠にありがとうございました。 以上で、令和8年度第1回の愛荘町総合教育会議を終了します。本日はありがとうございました。 午後3時15分 閉会
------	---